



(今月は61年8月21日から9月20日まで)に届出を済ませられたものです。

うぶごえ (出生)

あかちゃん	誕生月日	保護者	住所
井 友 帆	8. 2	秀 雄	和12
中 靖 美	8.17	豊 志	和12
波 美 穂	8.18	正 藤	栄 穂
間 明 絵	8.19	稔 芳	和 8
田 千 紗	8.23	宣 健	和12
近 藤 奈 美	8.29	佐 一	高 橋
土 田 奈 宗	9. 1	明 夫	和 5
大 関 宗 夫	9. 6		

おめでた (結婚)

結婚した人	前住所	新住所
阿 部 春 夫	夏 井 新 潟 市	井 室
(所) 時 江 文 子	岩 室 西 川 町	
羽 生 正 康	岩 室 西 川 町	

おくやみ (死亡)

氏 名	年齢	死亡月日	世帯主	住所
沖野 サミ	83	8.25	孝 一	和 6
難波 スイ	72	8.28	保 雄	栄 夏
遠藤 豊三郎	82	8.29	雄 孝	和 4
加藤 ヤイ	70	8.31	重 孝	間 2
上田 幸助	75	9. 8	タケノ	西 中
本間 傳藏	85	9.14	正 夫	和 6
和田 勝太郎	80	9.17	秋 夫	

おめでた おくやみ

クレジット時代

訪問販売のセールスマンに勧められ、クレジットを利用して羽毛ふとんを買う契約を交わしましたが、よく考えたら、わが家には今のところ不要な品物のように思われます。契約を取り消すことはできるでしょうか。

A セールスマンに勧められていたうちに何となくその気になって契約を結んだものの、その後、家族に反対されたりして考えが変わることはよくあります。

そこで法律では、訪問販売で商品を買った場合、一定期間内ならば契約を取り消すことができる制度を設けています。これをクーリング・オフといい、契約の申し込み、または締結後七日以内(休日を含む)であれば、消費者は無条件で申し込みを取り消したり、契約を解除することができます。

であっても、相手の店や営業所で契約を結んだ場合は、クーリング・オフは認められません。店へ出向くことは、消費者に買おうというはっきりした意思があったとみなされるからです。

クーリング・オフは、あくまでも、買う意思の定まらない消費者がクーリング・オフ(頭を冷やす)することを前提としています。

クーリング・オフ

一定期間内なら

契約を解除できる制度



街頭販売の場合も同様で、契約場所が、相手の店や営業所の場合にはクーリング・オフはできません。また、通信販売のように、電話などによって申し込みの場合も同様で、消費者に明らか

な意思があると考えられるため、クーリング・オフは適用されません(なお、事業者によっては返品特約によって返品を認める例もあります)。

商品を引取る費用は業者が負担

クーリング・オフの手続きは申し込み、または契約を取り消したい旨を書面(はがきなど)に書いて販売業者に郵送します。七日間以内の消印があれば有効です。

この場合、すでに品物が引き渡されていなければ返さなければなりません。引取りに伴う費用は販売業者が負担します。また、代金の一部を支払っている場合も、業者はすぐにそれを客に返さなければなりません。しかし、訪問販売の場合でも品物を受け取り、その場で代金を全額支払った場合、いわゆる現金販売には、クーリング・オフは適用されません。

広がれ！愛言葉

「だれでもできる気軽なあいさつで人間関係をスムーズにしよう」と、岩室村青少年育成村民会議では、このほど和納小学校校門前にあいさつ標語を書いた立て看板を掲出。子供たちの登下校はもちろんだ、地区の人から見てもらいたい、あいさつを通して「心の交流」を広げたいとおうと、「愛言葉・あいさつ運動」を展開しています。

桃栗三年柿八年

言葉の履歴書

「桃栗三年柿八年」は果樹が芽ばえてから実を結ぶようになるまでの期間を教えることわざ。桃や栗は三年なのに、柿は八年もかかるというわけですが、しかし、この年数は厳密な数値ではなく、成育の早い桃や栗に比して、柿の結実が遅いことを強調したものでしょう。

これに似たことわざは「首ふり三年ころ八年」。尺八の首が首をふって出せるようになるまでには八年かかるという意味です。また、舟を櫓であやつる技術が三年でマスターできるのに、棹を使いこなすには八年もの修業を要することを「棹三年に棹八年」といいます。

日本人の名数観念では「三日坊主」「三日天下」のように「三」は最も少ない数、また「八百八町」「八百八橋」のように「八」は最も多い数として使うのが通例です。「桃栗三年柿八年」の「三年」と「八年」も、そのような対比的表現とみてよいでしょう。



運動をすると体の諸機能が活発化

日常生活の中で運動が必要なのは、成人病を予防するという大きな目的のほかに、運動がストレスや肩こり、腰痛、疲れなどを解消してくれることです。そのうえ、体を使えば諸機能が活発になり健康も増進しますが、反対に使わなければ衰えてしま

“暮らした健康” 運動のすすめ

体は使わなければ衰えます。例えば、入院してベッド生活を続けると、治療によって病気が治るでしょうが、心臓や筋肉が衰えるのも事実です。体は絶えず動かしてこそ、本来の機能を発揮します。

運動で心臓を鍛える

ひとくちに体力といっても、それは筋肉の強さとか、持久力

運動のやり方のポイント

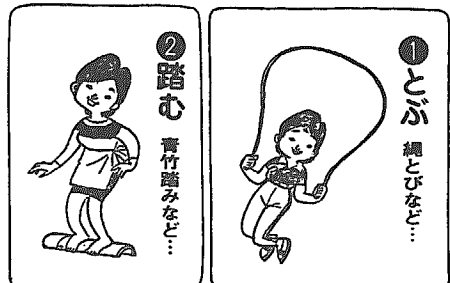
①長く続ける：何ごとにも三日坊主で終わっては、なんにも

とかのいろいろな要素をトータルしたのですが、何より「心臓が強い」ということが第一条件です。

脳卒中、心臓病などの血管循環器系の病気が、いづれもこの「心臓の強さ」と関係があります。猛練習をつんだマラソンの選手は、四二・一九五秒をすごいタイムで完走してゴールに飛び込んでも倒れるようなことはありません。このように、心臓の筋肉は運動などによって常に鍛えておくと、強さを増していきます。

なりません。毎日少しずつでもよいから長く続ける。②年齢・体力に合わせる：老人のスポーツはゲートボールと決まっているわけではありませんが、体力に不相応なスポーツに取り組むことは危険です。くれぐれも年寄りの冷や水にならないよう

簡単な体操



を円滑にして楽しく行うようにしましょう。